

# 若鳥訓練について

## 素質か訓練か？

- ・音質は素質（遺伝）、歌節は訓練とされています。
- ・ロール音がやわらかで、透明感があり、ゆったり鳴く鳥は素質が優秀です。
- ・濁った声、かたい声、甲高い声、歌節を短く鳴く鳥は素質不良です。
- ・鳴きキズ（とくに、ネーザルツアーとハードアフザク）も素質が影響します。
- ・ロール音を良く鳴くか、ツアー音重点に鳴くかも素質の影響が強いです。

## 教師鳥の選定

- ・全歌節鳥であること。（各歌節が明瞭であること）
- ・まめに良く鳴く鳥であること。
- ・3歳くらいの鳥が、鳴きが安定して静かに鳴くことが多く、教師鳥に良いようです。
- ・ハローロールをやわらかに長く鳴き、ベースロールは力まず深みのある声、グルックはゆったりと間があり、ハローベルがおとなしく、ワターグルックがまるやかな鳥は理想的な教師鳥です。

## ヒナみの訓練

- ・訓練は孵化前から始まります。
- ・常に、良い鳴きの聴こえる場所で発育させます。
- ・鳴きのくずれた親鳥は、すぐに隔離します。

## <歌節の学習期間>

孵化～孵化100日頃まで

親羽に換羽後の学習能力は低い

訓練は、記憶した歌節を上手に鳴かせるための練習。

## 本格訓練

- ・9月下旬頃から本格訓練を開始します。
- ・暗くすることで若鳥を落ち着かせ、教師鳥の鳴きを良く聴かせるのが訓練の基本です。
- ・従って、カーテンの遮光は若鳥が鳴き過ぎない程度に調節します。
- ・まめに鳴く教師鳥でなければ効果が無いので、教師鳥は良く鳴ける条件下に置きます。
- ・11月から1羽立てします。一羽毎の仕切りは7～10日間かけて徐々に行います。
- ・若鳥の餌は強めにします、卵餌は1週間に1回程度。餌を落とすと良くないものです。
- ・ベル鳴きの鳥はさらに暗くするか、別の場所に隔離します。
- ・鳴きの遅れた鳥は、やや明るくします。

## コンテスト準備

- ・審査の時、すぐに鳴けるように訓練しておきます。
- ・12月からはカゴを積み上げて、鳴きを良く聴きます。
- ・色々な場所で鳴かせて、慣らしておきます。
- ・コンテスト前には、自動車に積んで運搬したりして慣らします。
- ・餌は通常の餌とします。卵餌は週に1度程度。
- ・自分なりに鳴きを探点しておきます。